

〔認知症対応型共同生活介護用〕

## 1. 調査報告概要表

作成日 平成 19年 3月 19日

## 【評価実施概要】

事業所番号	介護保険指定事業者番号 第 3270101581 号
法人名	株式会社 やつかの郷
事業所名	グループホーム やつかの郷
所在地	松江市八束町二子1025番地9 (電 話) 0852-76-3522
評価機関名	有限会社 保健情報サービス
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1
訪問調査日	平成19年3月14日

【情報提供票より】 ( 19年 2月 23日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 3月 21日
ユニット数	2 ユニット
職員数	20 人
利用定員数計	18 人
常勤	13人, 非常勤 7人, 常勤換算13.3人

## (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り 1階建て
------	-----------------

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,500 円	その他の経費(月額)	4,005 円	
敷 金	有 ( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 175000 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	220 円	昼食	560 円
	夕食	560 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

## (4) 利用者の概要 ( 月 日現在 )

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	3	要介護2	6		
要介護3	3	要介護4	5		
要介護5	0	要支援2	1		
年齢	平均 83.1 歳	最低	68 歳	最高	95 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉岡病院 小須賀歯科医院
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな中海と日本有数のぼたん農園が広がる ゆったりとした環境の中にある。新鮮な朝港に揚がったばかりの魚や施設の中庭で収穫される野菜を利用者と一緒に調理し、何よりも食べることを楽しみ・大切にしている。中庭の野菜は経営者が率先して大きく育てと手入れに時間を惜しまない。利用者も草取りを手伝いながら野菜の成長をたのしみ収穫の喜びを一緒に味わっている。自然溢れる戸外の散歩も自由で地域の人々との交流も始まっている。「低い目線で、人格を大切に、その人の生き方全部を受け止め、笑顔を絶やさない介護」を理念に日常生活は穏やかな自然体で営まれている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 施設長が先頭に立ち、理念に基づき日々の業務の中でケアの振り返りや見直しが再三なされている。積極的にサービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 第一回の会議が1月に行なわれたばかりだが、家族の代表も好意的に参加され、当該サービスの周知や交流活動の始動がうかがえた。今後は経営の悩みや困難事例など市町村や地域住民と共に連携を組んで取り組んで置かれる事が望まれる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の訪問が非常に多く家族からの意見を出し易い関係にある。その都度職員に直接指導しサービス改善へ反映させている。ただ、直接意見を言えない利用者のためにも意見箱の設置と家族会を開催して家族同士の悩みを言える場所づくり、相談・苦情記録書を作成して職員全体の事として受け止めケアに活かしていかれることを今後期待したい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ボタン祭りの行事に「イカ焼・さざえご飯の店」を出店し大盛況、散歩中にボタン畑で作業中の地域の方々から花を頂くなど出かける交流は盛んに行なっている。ホームの特性を生かし、ホームを開放しての行事や地域活動にスペースを提供することで、今後一層 地域住民の一員として地域で必要とされる施設になられることを期待したい。

## 2. 調査報告書

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念は「利用者より低い目線で、笑顔を絶やさない、さり気ないケア」を掲示すると共に、職員全員が周知している。		家庭的な環境に加え、今後は地域との交流・役割を目指した内容の理念に作り変えていかれることを期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	採用時の職員教育は勿論、日々の介護の現場で、管理者が気がついた時に個別にかかわりの振り返りや理念について話し合い、ケアの統一を図っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ポタン祭りの行事に「イカ焼き・さざえご飯の店」を出店し大盛況、利用者も地域の方々と交流し買物など楽しんだり、散歩中にポタン畑で作業中の地域の方々から花を頂く場面も再三で出かける交流は盛んに行なっている。又ボランティアを受け入れたり社交ダンスなど行事交流も始まっている。	○	ホームの特性を生かし、ホームを開放しての行事や地域活動にスペースを提供したり、認知症予防教室等の開催などホームの役割を理解して頂きながら、交流の「場」として提供をして今後一層 地域住民の一員として地域で必要とされる施設になられることを期待します。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	形式的な作業ではなく、理念に基づき日々の業務の中でケアの振り返りや見直しを再三なされている。自己評価で気づいた事、帳票類の整備や書式の改善・変更等の実行出来る事から取り組みが始まっている。積極的にサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第1回目の会議が1月に行なわれたばかり、施設の活動状況の報告を行い、メンバーからは自治会への入会誘いを受けるなど双方向的な取組が始まっている。家族の代表も好意的に参加し、家族会の発足や意義についても話し合いがもたれた。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	国保連への請求手続きなど事務的な相談には再三市町村へ出向いている。市町村側から見学に来てもらってアドバイスしてもらったが、事業所の運営やサービスの課題などについての相談には至っていない。	○	地域の民生委員の相談に応じているが、市町村と連携して、ホームのサービスの質の向上と共に、地域へのサービスにも取り組んで欲しい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問が非常に多く、日常生活ぶりをじかに見てもらい家族の状況も話し合ったりしている。発熱等体調の変化時には即連絡し家族対応で受診するケースもある。毎月の請求書に家族便りを同封送付し、面会の少ない家族にも定期的近況報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱への投書は無く、直接職員や管理者へ口頭にて述べられている。管理者は事の重要性を見極め、職員への助言を行い、家族へも個別対応を行い納得いただいている。	○	相談・苦情記録書を作成して職員全体の事として受け止めケアに活かしていかれることを希望します。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設当初より利用者に対して担当職員は決められているが、職員全員が自主的にローテーションを組み、ユニット固定制を取らず、全体把握・全員でケアに努めており、職員の移動や離職による利用者へのダメージは今の所発生していない。		


外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修には仕事として順次参加させ、段階に応じて育成するための取組がされている。参加者は復命報告書を提出している。	○	研修で得られた知識は復命報告書を回覧したり、報告会で伝達講習するなど、職員全員が共有し「働きながら学び」の機会が多く出来ることを期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホームとして同業者との交流や相互訪問研修等は行われていない。各自でGHの見学や研修を行っていた。	○	同業者連絡会やネットワーク作りに参加し、他事業所との相互研修やマッチング研修などで職員自身が気づきと発見をしサービスの質を向上させるような計画が出来ることを期待します。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	多くの場合、本人と家族に見学や体験入所をしてもらっている。納得しての入居は穏やかだが、十分納得できないで入居した場合は「騙された！」思いで不穏になり易く、「本人に何時本当のことを話したら良いか」家族と相談しながら決めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調査中、不穏になった入居者に対し本人の思いや苦しみ・不安などを知ることに努め、暮らしの中で分かち合い、共に支え合う関係づくりが出来ているのを感じた。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本意の日常生活が送られている。鍵かけも無く、外出願望のある方へは、本人の今の気持ちを察知し、一緒に散歩へ出かけたり、話相手になったり、利用者の意向の把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入所時に本人、家族の意向を聞いて本人がより良く暮らすための課題を盛り込んだ介護計画が作成されていた。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	個別記録欄に日々の状態変化などの記録が不十分であるが、職員間の申し送りノートに変化の記録対応方法などが記載されており、緊急な場合は貼り紙メモなどで変化を職員間で共有し、介護計画の見直しを行なっている。	○	申し送りノートの個人の変化の記録やその時の対応方法等、緊急な場合の貼り紙メモ、日ごろのエピソードなどを個々の経過記録に貼付するなどすることで記録の充実とその人の姿・生き方が見えてくる。今後のケアの見直しに役立てられることを期待します。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診や買い物等は家族と接する大切な時間の為、基本的には家族にお願いをしているのだが、家族の状況や希望に応じてホームが柔軟な対応をしている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望で殆どの入居者は在宅時のかかりつけ医による医療を継続している。基本的に受診は家族対応であるが家族より受診結果を伝達してもらい、その情報を職員等と共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者本人や家族の終末期への希望が出ていない事もあり、終末期への対応もホームの方針として、明らかに定められていない。	○	早い段階で重度化・終末期への対応、でホームとしての方針を明らかに定められる事を希望する。また、気軽に相談できたり、往診に対応して頂ける医者の確保を希望する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊厳やプライドを守るケアが自然体で行なわれていた。また、入居していることを世間には知られたくないと言う家族もあり、個人情報については特に注意深く扱い、秘密保持の徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「一日の流れ」には食事とおやつの時間のみの記入。利用者はそれぞれに回廊を散歩したり、お茶のみ会をしたり、洋服を買いに行きたい、カラオケしたい等の希望が自由であり、食事の手伝いをしていた入居者が遅くなった方を呼びに行く行為も自然であった。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日常生活の中心で野菜作りを営み、近くの海から届けられる新鮮な魚介類と合わせて入居者等と一緒に調理している。食生活の一環を施設全体が楽しみながら行なっていて、訪問された家族も味わう事ができ好評を得ている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日を一応決めてはいるが体調や希望により他の日にも対応できるように、職員は細かく時間差出勤で対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	過去の経験を活かし、野菜の栽培や畑の土いじり、畑の雑草を取る方、洗濯物を干す方、たたむ方等自然に役割が出来、それぞれが楽しんでおられる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩には自由に出られるようにしてあり一日に何回も中海を眺めに玄関先まで出かける入居者もある、天気の良い日には職員と一緒に施設周辺のボタン園散策に出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	その人らしい暮らしの尊厳を守る理念を職員全員が理解しており、特別に研修会は実施していないが日常業務の中で施設長を中心に身体拘束をしない・鍵をかけないケアに取り組んでいた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の避難場所、避難経路の確認は定期的に行なっているが、実践的な避難訓練がまだ実施されていない。	○	周囲に民家が全く無く、火災や地震・水害等の災害発生時を想定しての防災年間計画を作成し定期的に実践的な避難訓練と、出来れば3日分の災害備蓄品の確保をされることを希望します。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲み込みの悪い方や視力障害の方等利用者それぞれに応じて配慮した食事を作っており、状態や習慣に応じた支援をしている。又お茶や果物のお代わりに声かけをして追加サービスしていた。	○	高齢者は意外と水分摂取量が少なく、結果体調不良に陥る事がある。個人記録表に水分摂取量を記録し個々の一日の水分摂取量を把握される事が望まれます。
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭の野菜が季節を直に感じさせている、回廊を散歩がてら歩行運動、休憩には玄関ホールのソファも利用者の好きな居場所になっていた。空調も整って特にトイレ・洗濯場・物干し場は清潔に整備されていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはコタツを持ち込んで居心地よく工夫され、なじみの利用者が集まりお茶飲み会、郷土史の写真をみながら話がはずむ様子が感じ取られた。		

※  は、重点項目。